



活き活きとやり甲斐をもって、 働ける病院風土を

近森会グループ理事長 近森 正幸

医療を取り巻く環境は急激に変化

この10年を振り返ってみますと、高齢社会の到来、医療の高度化、診療報酬のDPCによる1日包括払いへの移行など、医療を取り巻く環境は急激に変化しています。「患者さんに早くよくなってもらい、早く自宅へ帰っていただく」というアウトカムを出すために、膨大な業務を処理する必要があり、多職種による多数精鋭のチーム医療で対応しなければならぬ時代となっています。高度医療にも耐えられる設備投資と、患者さんの治療空間の拡大、なによりも増加したスタッフの空間を確保するためにも、ハード面での全面的な見直しをせざるを得ず、そのために2010年春から近森病院全面増改築の5カ年計画がスタート、今春で4年近くが経過しました。

完成をひかえた新本館

今年夏に完成の新本館は、免震構造の地上13階、屋上にはヘリポートを有する近森病院の中核的な建物となります。1階はERを拡充、2階には4室の高機能手術室を加え2階フロア全体で11室の手術センター、3階は外来センターと陸橋で結ばれ、血管造影や内視鏡センターといった手術室以外での手術機能をあわせ持った、総合的な検査フロアとなります。4階にはCCU18床が開設され4階全体で54床の高規格の病棟として、多職種が病棟に常駐し専門性の高いチーム医療が展開されます。5階には脳卒中对応のSCUが北館病棟より移動、新本館完成後には新館5階、6階病棟、厨房が全面的に改装され、5カ年計画が完成することで、高度急性期医療を担う新しい近森病院へと生まれ変わります。

近森リハビリテーション病院の建設に続いて

2015年の初夏には地上8階建の免震構造を有する近森リハビリテーション病院が完成します。リハ病院移転後は、近森オルソリハビリテーション病院が移転し、個室も増加してアメニティも改善、本院に隣接することで、これまで以上に急性期とのより密接な連携が図れるものと期待しています。オルソリハ病院移転後の建物は喫緊の課題である看護師や医療スタッフの教育と研修に役立つセンターとして機能するようになればと考えております。

近森病院総合心療センター

近森病院第二分院の総合心療センターは、近年の精神医療の進歩と自立支援の充実に加え、若年人口の減少により入院医療が大きく変遷したことを受け、104床の病床を急性期病棟60床に特化、近森病院に統合して近森病院の総合心療センターとして、昨年10月から再出発しました。これからも更に質の高い精神医療を行うとともに、救命救急センターと連携することで精神障害者の身体疾患にもいち早く対応できるようになります。今年1月にはメンタルリハのデイケアも総合心療センターに移転し、パティオと共にデイケアが更に充実することになります。

看護部の組織変革

昨年最大の組織変革は看護部です。近森会グループ統括看護部長補佐に岡本充子、近森病院看護部長に吉永富美、副看護部長に川村久美子という、新しい体制がスタートしました。今年3月末には長年近森会グループの発展に大きな貢献をして下さった梶原和歌統括看護部長が退任され、後進に道をゆずられることとなりました。しばらくは、看護担当の理事と社会福祉法人ファミリーユ高知のウェブの施設長は続けていただき、看護部の顧問として、フリーな立場で後輩の指導、育成にあたってくださいようお願いしております。

新しい革袋に新しいワイン

近森病院は今年1年、近森会グループ全体でも来年にはハード面の整備はほぼ完成します。そのあかつきには、近森会グループは、これまでとはまったく違った21世紀の医療に対応し得る病院群に生まれ変わります。それに伴い、この数年間で近森会グループ全体でも「新しい革袋に新しいワインを入れる」ように世代交代が進むことは確実です。

やり甲斐をもって働ける病院風土を

今までの近森の伝統である、すべての医療専門職が医師の指示のもと何も考えずに業務を行うのではなく、自立、自動するスタッフとして研鑽を積み、「忙しくても活き活きとやりがいをもって働く」、そういう病院風土をこれまで以上に育てていただきたいと切に願っております。



サプリメントの ウソ・ホント

近森病院臨床栄養部

部長 宮澤 靖

い。良いものを紹介できますよ！

みやざわ やすし

最近、よく見かける健康食品やサプリメントですが、一般に伝わっているような内容とかけ離れているものが、多く見受けられます。

寒い季節に入り「鍋物」が美味しい季節になりました。そこでよくテレビで「コラーゲン鍋」例えば「もつ鍋」なんかが代表ですが、肌に良いと聞いて皆で鍋をつつき、翌朝「肌がプルプルになった」と大騒ぎした人も少なくないのではないのでしょうか。残念ながらそれは「錯覚」だったと言わざるを得ません。

コラーゲンは、主にたんぱく質で構成されていて、口から摂取すれば、コ

ラーゲンのまま肌に届くことはなく、胃でアミノ酸に分解されるだけです。

コラーゲンを構成するアミノ酸は、プロリン、ヒドロキシプロリン、アラニンというアミノ酸で、必須アミノ酸というグループに属します。これは、体内合成ができないアミノ酸で「必須」という文字がついています。実はある特定のアミノ酸から合成されます。

高いお金を支払っても意外と効果がないものが多いのがこの世界です。一度、管理栄養士に相談してみてください

1月の歳時記

水仙

近森リハビリテーション病院

言語療法科言語聴覚士

野島 唯



水仙はギリシャ神話や日本の和歌にその名前が登場するほど美しく、雪を纏った姿は芸術工芸のモデルにもよく用いられていたそうです。私の家の庭にも咲いており、庭から見える海を背景によく写真を撮っています。庭に咲いている水仙の甘い香りを嗅ぎながら、早く(私にも)春が来るといいのになあ…と思う今日この頃です。

のじま ゆい



絵・総務課
広報担当
公文幸子

須賀敦子(気儘エッセー No7 参照)はミラノで結婚したがイタリア人の夫の死後、帰国。フランス、イタリアで知りあった人々やコルシア書店の仲間を「回想風エッセイ」として書き始めたのは帰国から15年後であった。エッセイのなかで時に自己を語る部分から、彼女の心の軌跡を拾った。

18歳でカトリックの洗礼を受け、聖心女子大1回生35人のうち14人がシスターになるという環境が渡欧の出発点と思われる。「一日もはやく行かないと、じぶんもヨーロッパも変わってしまうような気がするのです。(出典：砂漠に行くものたち)」しかし昭和28年(24才)パリ到着早々暗い気持ちになる。「じぶんはいったい何をしにこんな遠くまでやってきたのだろう。(出典：フランドルの海)」そして苦悩「はじめてのヨーロッパは、日本で予想していたよりずっときびしかった。言葉の壁はもちろん私を苦しめたが、それよりも根本的なのは、この国の人たちのものの考え方の文法のようなものへの手がかりがつかめないことだった。(大聖堂まで)」「なんのために勉強しているのか、あるいは、

将来どんな職業をえらぼうとしているのか・・・ぐずぐずしているじぶんがもどかしかった。(砂漠に行くものたち)」パリから帰国後、昭和33年(29才)イタリアに留学する。「(日本で知った)この書店のありようが、純粋を重んじて頭脳的な冷たさをまぬがれないフランスのカトリック左派にくらべると、ずっと人間的にみえて、私はつよくひかれた。(銀の夜)」

気儘エッセー 8

異郷にとびこんだ人

須賀敦子(その2)

近森病院外科部長

田中 洋輔



「私がフランスを捨ててイタリアをえらんだ理由のひとつは、たしかにフランスの精神性をどこかうるさく感じていたからだ。(出典：1929年)」「進む方向がわからなくなって、留学先のローマで途方にくれていた(地図のない道)」彼女は「キリスト教を基盤とした、しかも従来の修道院ではない生活共同体というものがはたして可能なのか・・・たとえば雑誌の編集という職場でなら・・・共同体というものが考えられるかもしれない。(銀の夜)」とミラノのコルシア書店に飛び込む。人生軸であるカトリック信仰に従い、苦勞や貧困を厭わず進んで異郷に入った勇氣には感服する。妹の北村良子は子供の時から「お姉ちゃん強い」と思っていたそう。須賀敦子の人生を知りたい方は著書(エッセイ)をお読み頂きたい。

細分化と現場感覚

～医療の細分化は有用か～

近森病院神経内科

主任部長 山崎 正博



医学の進歩は日進月歩といわれるようにもの凄いスピードです。ちょっと勉強を怠るとついて行けなくなります。内科の症例検討会でも疾患の分類、

検査所見、治療法など身近な疾患すら、情報がもの凄く増えて目を見張るものがあります。若い医師は覚えることが増えてたいへんです。

一方、35年前の私の研修医時代はてんかん診療を例にとっても、わずか3種類の抗てんかん薬しかなく、検査も脳波検査のみでした。今はどうでしょうか。CT、MRI などに加え脳血流シンチグラフィ、脳磁図検査が加

わり、新規抗てんかん薬6種類も増えました。今の医師の仕事は、多くの検査から情報を集めてよりの確に診断し、多種の薬剤から最適なものを選ぶ、あるいは最適な手技的治療を行うことになっています。

検査も治療も細分化、というのが今の医学の進んでいる方向ですが、現場の实地臨床の目から見ると、細分化はそんなに大事なことから、思うことがよくあります。神経疾患ではパーキンソニズムなど数種類から、遺伝子分析等の進歩により何十種類にも病名が増えています。

しかし分類が増えても、診断や治療など診療の根幹には影響はないですね。細分化された分類からiPS細胞などを使った治療法が見いだされるのはまだまだ時間がかかると思います。知識や情報を増やす医療の細分化は必要でしょうか。 やまさき まさひろ

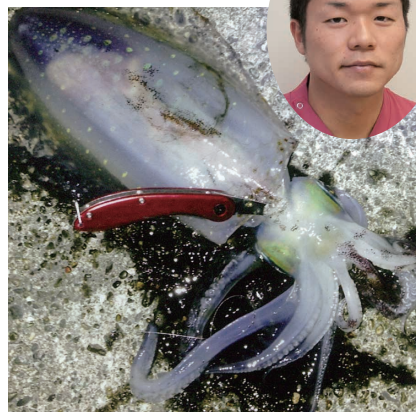
私の趣味

アオリイカの エギ釣り

近森リハビリテーション病院

3階西病棟介護福祉士

齊藤 友希



肌寒い季節がやってきた今日この頃。満月、新月の夜になると釣り好きの友人から「イカ釣りに行こう、潮がえいき」という誘いが増え始めた。今までイカ釣りをしたことがなく、「どんなもんじゃい」という気持ちで1回、2回行ったものの、友人は毎回釣れるが私は坊主という結果が続いた。3度目の正直で釣れなかったら引退を決意していた満月の夜、まさかの3連チャンで3杯ゲット。1杯目が釣れたときの魚とは全く違う糸の引き方の衝撃は今でも忘れません。釣り上げられまいと必死に墨を吐いてくるイカ VS 明日のおかずを絶対釣り上げたい人間。ほこたて・・・勝者人間。

自宅に帰り初めて釣ったイカを自分でさばいた後、バター醤油で味付けして食べたときは最高に美味でした。

今の季節の夜釣りは寒さとの戦いといってもいいほど寒い。しかし、釣れたときの喜びやさざ波の音、星空の癒しを考えると今日も夜釣りに出掛けてしまう。これからも趣味の一つとして続けたいと思う。

さいとう ともき

★★ PS サポーター ★★

毎日が挨拶運動

近森病院理学療法科

主任 山口 眞美

サポーター候補生作成のあいさつポスターと一緒に▶

PSサポーターの山口です。PSサポーターとして私の個人の今取り組んでいる活動が「毎日が挨拶運動」です。院内ですれ違うスタッフや患者さん、業者さんを見かけたら、できるだけ自分から挨拶するよう心がけています。

挨拶は、相手に、あなたのことをき

ちんと認識していますよという最初のアクションなんだそうです。最後にニコッと笑うとその効果はさらにアップするそうですので、みなさんも挨拶のときはぜひとおきのスマイルをプラスしてみてください。

やまぐち まみ



メディカルスタッフ・ワークウェア 16 診療放射線技師

モデル・左から竹内実、西森美千代、久保行広



ウェアを変更する際、白で清楚なイメージを大切に当部の数少ない女性陣の意見を尊重してウェアは決まった。ジャージ素材で伸縮性があり、体にフィットして動きの多い一般撮影検査では作業がはかどると好評だ。

診療放射線技師の仕事は、主に放射線を用いたものやMRIなど放射線を用いない医療画像の撮影や解析である。その画像で医師がより治療をしやすいよう撮影部位を工夫し、異常のありそうな部位は追加や解析を加え、治療に有用性をもたす事につとめている。

患者さんに撮影中不安を感じさせないよう、コミュニケーションに気を配るのも大切な仕事だ。患者さんから「安心して撮影に臨めた」「画像のおかげで治療がスムーズにできた」といただく感謝の言葉を励みに頑張っている。

彼らは現代の医療を支える、高度な放射線検査の技術を身につけたプロフェッショナルである。

第 122 回地域医療講演会



高所と健康、病気 ～低酸素適応と生活変化～

近森病院神経内科

科長 葛目 大輔

今回、お招きいたしました奥宮先生とは老年病科の大先輩にあたり、私が神経内科医師として歩み出した時から大変お世話になっておりました。

また、私の学問的興味の一つとしてある「疫学研究」に関しても、奥宮先生から初歩の手ほどきを学ばせていただきました。(その結果として、2001年の日本神経学会総会やバンクーバーで開催された国際老年医学会総会での

発表に繋がりました)

今回は奥宮先生のライフワークであります世界各国で展開されておられますフィールド医学につきまして、学術研究や現地調査でのいろいろな困難さも垣間見ることができました。

それらの困難な状況を乗り越えられ



講演中の奥宮先生

て、確固たる研究成果が一冊の本に結実されておられます。奥宮先生の今後のご活躍にご祈念致します。

くずめ だいすけ

第 123 回地域医療講演会

発達障害の理解と心の援助 ～中学生・青年の箱庭療法の ケースを通して考える～

講演中の高野先生

近森病院総合心療センター
デイケアパティオ
臨床心理士 北川 のぞみ



今回の地域医療講演会は高知心理療法研究所所長の高野祥子先生にご講演いただき、一般の方をはじめ医療、福祉、教育、警察関係など支援に携わる幅広い分野から約 150 名のご参加をいただきました。

箱庭療法はある大きさの箱に砂やミニチュア玩具で個人の内にあるイメージを自由に表現する心理療法ですが、



自由な表現にはそれを見守るセラピストの存在が大切とされています。

今回のケースも高野先生の大きな見守りで、箱庭療法やカラーージュなどを用いてクライアントが自己を表現され、成長する過程をうかがいました。

「発達障害は障害ではなくその方の特性として見て成長を援助する」という高野先生の臨床を学ばせていただく機会となりました。

きたがわ のぞみ

● お知らせ 医療従事者対象 ●

● 第 124 回地域医療講演会

「より安全で質の高い

内視鏡外科手術を行うために」

日時：平成 26 年 1 月 17 日 (金)

18:00 ~ 19:15

会場：管理棟 3 階会議室

講師：近畿大学医学部外科学

内視鏡外科部門教授 今本治彦先生

● 第 125 回地域医療講演会

「ブルキンエ不整脈：心室期外収縮から
心室頻拍・心室細動まで」

日時：平成 26 年 1 月 31 日 (金)

19:00 ~ 20:30

会場：管理棟 3 階会議室

講師：筑波大学医学医療系

循環器不整脈学講座教授 野上昭彦先生

● 第 126 回地域医療講演会

「がん治療における再建外科の役割」

日時：平成 26 年 1 月 31 日 (金)

18:00 ~ 19:30

会場：管理棟 3 階会議室

講師：岡山大学大学院

医歯薬学総合研究科形成再建外科学
教授 木股敬裕先生

お弁当拝見 21 お腹いっぱい ズボラ弁当



近森病院救命救急センター

看護師 前田 美穂

お弁当を作り始めたのは、就職して市販のお弁当を食べていたら体調を崩してしまったことがきっかけです。お弁当の内容は、夕食の残りや朝食程度のものに一品入れるぐらいの簡単なもので、できるだけ手作りにするようにしています。

私は、腹八分目が出来ず、お腹いっぱい食べたいのでお弁当箱はいつもギュー

ギューです。たくさん食べてもカロリーを押しさえられるよう野菜を多く使うよう心がけています。

ご飯は玄米ですが特にこだわっているわけではなく「精米するのが面倒なだけ」というズボラの極みです。(が、炊飯器が壊れ毎日お鍋で炊いています・・・)

こんな風にズボラなお弁当なので続け



てこられたのかな・・・?と思います。

忙しい仕事の合間、「お腹いっぱい」の幸せが続くようこれからもズボラ弁当を作って行きたいと思います。

まえだ みほ

第 29 回クリニカルパス大会報告



医療安全とパス

クリニカルパス委員会委員長
脳神経外科部長 高橋 潔

昨年 12 月 5 日医療安全委員会とパス委員会のコラボで「医療安全とパス」と題してパス大会を開催しました。70 名の参加を得て活発な議論が行われました。

パス使用例ではインシデント報告

が、ある程度経験があるが、部署移動した 1 年以内に多いなど、考えさせる問題もありました。また、食事や安静の指示理解が職種や個人で違っていることも判明しました。

パス委員会では BOM(basic outcome

発表者である医療安全委員会の田村看護師長(右)、5C 病棟看護師 浅川さん(左)



master) といって電子カルテでも共通して使えるアウトカムを導入予定ですが、さらに、言葉使いから標準化が必要で医療安全の面からもさらなる取り組みを強化したいと考えています。

たかはし きよし

◆ MVP 表彰された方々 ◆

近森会グループ MVP

消化器内科部長 岡田 光生

胆同系処置の礎を築き、内視鏡観察の最新手技を導入。若手医師の育成にも尽力し、内視鏡治療の要として貢献してくれている。

救命救急センター秘書 西岡 亜紀

救命救急センター秘書としての業務に加え、本年度の救急医療付加機能評価受審で実直な現場サポートを行った。

四国管財株式会社施設管理センター
明神 了平さん / 村上 由高さん

常に迅速、確実かつ笑顔で絶やさない仕事ぶりで医療現場を根底から支え、皆が安心できる環境を提供している。

地域医療連携室看護師主任 村田 美和
常に患者さん本位、紹介医尊重、救急隊重視の観点で刻々と変動する状況に応じた病床管理を行っており、病院の基幹機能となる地域医療連携の要として活躍している。

北館 5 階病棟看護助手 山中 福美
患者さんに最も近い存在として明瞭活発、かつ細やかな心配りがあり、新規配属の職員への教育も任せられるなど信頼も厚く、病棟を安心感で包み込んでいる。

管理部総務部長補佐 谷 知明

日々の臨床研修管理委員会活動に加え、臨床研修評価、臓器移植、事故対策等厳しい状況下においても誠実な調整と堅実な仕事振りで業務を全うした。

災害対策小委員会(チーム受賞)

代表 山下 佐和 / 山本 彰

来るべき南海大地震を始めとする災害に備え、災害対策マニュアルの改訂や各種訓練に尽力した。これは当グループのみでなく、県民の生命や未来へ貢献した。

近森オルソリハビリテーション病院
4 階病棟看護師 田中 順子

オルソ病院外来の立ち上げにあたり、環境整備に重要な物品の調達からシステムの構築まで、様々な要望を組み入れ見事に実現された。



近森会グループ MVP

▲前列左から村上由高さん、岡田光生さん、山本彰さん、谷知明さん。後列左から西岡亜紀さん、山中福美さん、村田美和さん、近森正幸理事長、田中順子さん、山下佐和さん、田中宏親さん

ハートセンター MVP

ICU看護師 安岡 志穂

循環器一般病棟から異動後、ICUで重症患者さんの担当、リーダーも担っている。長きにわたってハートセンターへの貢献と活躍を賞し、同じ立場のスタッフ数名を代表して。

薬剤部 吉川 怜美

入院患者さんの病床に赴き、自己管理指導を始め、体質やアレルギー歴、服薬状況を正確に把握し、安全や薬剤管理に努めている。

医療相談室ソーシャルワーカー 溝渕 彬人
救命救急病棟担当として、24 時間以内の初期介入を実施し、早期退院に向けて精力的に活動され、退院調整に貢献した。

臨床検査部 樫本 浩之

カテ室専任技師として、多職種と連携し安全な治療が行えるようサポートし、チーム医療に貢献し、院内外の勉強会や学会にも積極的に参加している。

(株)シーメック技術部部長
矢野 隆浩さん

昼夜を問わず、近森職員同様に働いていた。術前の準備、術中のスムーズな進行に尽力されている。



ハートセンター MVP

▲前列左から溝渕彬人さん、樫本浩之さん、矢野隆浩さん。後列左から川井和哉主任部長、安岡志穂さん、吉川怜美さん、入江博之部長

理学療法士交換研修報告

近森病院での
研修体験

社会医療法人仁愛会浦添総合病院
理学療法士 上原 千絵美



近森のスタッフとも仲良くなりました

福岡の専門学校を卒業してずっと福岡の病院に勤めていたので、沖縄に戻り浦添総合病院に勤めたのは2012年10月からでした。

今回の研修の話があがったときは浦添総合病院に来てまだ1年もたっていなかったもので、手をあげていいのだろうかと思いましたが、別の病院で研修させてもらうことなんて一生に一度あ

るかないかぐらいのことだと思い、自ら志願しました。

上司は「よく志願してくれた、近森病院はとても素晴らしいところだから楽しんで勉強してきてください。」と、いって快く送り出してくれ、この研修がスタートしました。

近森病院のスタッフの皆さんの知識・技術の豊富さ、情報収集能力に驚き、また初回介入日からチームでディスカッションが行われているチーム力に圧倒されました。スタッフの皆さんにはとても丁寧に教えていただき、

助けられながら研修を受けさせてもらっています。

浦添総合病院のリハビリスタッフ数は近森病院のスタッフ数の約半分程度の人数であり、日々業務に追われ、とても忙しい毎日を送っていたので、私がこんなに親切に丁寧に研修を受けさせてもらっていることが少しみんなに悪いなという気持ちにもなりました。研修も3カ月目と最後の月に入り、更なる近森病院の魅力を浦添総合病院のみんなに伝えられるよう楽しんで頑張りたいと思います。

うえはら ちえみ

春の芸術祭作品募集!!

コミュニケーション委員会では、学術担当理事の土居義典先生に新委員長として就任いただきました。今年も春の芸術祭の作品を大募集いたします。皆様の力作のご応募をお待ちしております。



●募集期間

平成26年1月14日(火)
～2月14日(金)

●作品展示場所:

管理棟3階ホール

●作品展示期間

平成26年2月25日(火)
～3月6日(木)

●募集作品: 写真、絵画、華道、書道、俳句、川柳、折り紙、手芸等、大きすぎるものでなければ何でもOKです。

※詳細は各部署のコミュニケーション委員まで

■ 近森リハビリテーション病院

ボウルジャンボ跡地で昨年12月11日に起工式が行われました。



ワイン講座 ● 18

日本のワイン その5

10年先を見てのワイン造り

「日本の赤ワインって軽くて、薄っぺらなタイプのワインが多いですね。」「欧米のワインと比較すると割高ですね。」「と言った言葉をよく耳にします。このワインに出会うまでは、私も、そう感じていたひとりでした。

数年前に、ワイン仲間とのブラインドテイasting(ラベルを見ないで試飲)で、このワインを持参しました。ブラインドテイastingは、過去の経験から、自分の引出しからヒントを取り出して、そのワインを観察し表現する。例えば、このワインは、この様な香り、味わい、時間の経過で、この様な個性だから・・・。どこの産地の何年の何とかと言うワインで、生産者は誰。と言った風に。

答えを知っているのは私だけで、ニコニ

コ顔で仲間のコメントに頷いていました。「これは、フランスのボルドー地方の格付けされたワイン、それも3級か4級程度。」だとか。この言葉を聞いて、このワインの可能性と実力を感じました。

このワインを10年後に飲むと、どんな風になっているのか。また、10年後に造られたワインは、どんな風格を持ったワインになっているのか。人と同様に、ぶどうの樹も年齢を重ねる事により、いい仕事をするようになります。

鬼田知明 (有限会社鬼田酒店代表)

アルガ・アルカサール 2007 / 勝沼醸造 / 山梨県甲州市勝沼町 ● ワイン名は「アルの宮殿」の意。同シリーズの最高峰の赤ワイン。ボルドー地方の一流のシャトーの流儀を用いて造られています。年産1187本。

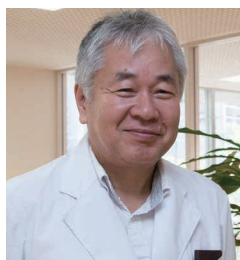


「メンタルクリニックちかもり」の移転

総合心療センター 3階フロアへ

近森病院総合心療センター
センター長

明神 和弘



メンタルクリニックちかもりは、平成 26 年 1 月から近森病院総合心療センターに統合いたしました。その前身は昭和 60 年に第二分院デイケアとして現在の北館病棟で当時の旧管理棟 5

階フロアに開設していました。職業リハビリテーションとして職員レストランを営業しながら精神障害者の社会復帰に取り組み、当時としては先進的施設として運営していました。

平成 10 年 7 月に第二分院から独立して、精神科デイケア専門のクリニックとして現在の場所に移転、援護寮まち・地域生活支援センターこうち・訪問看護ラポールとともに高知メンタルリハビリテーションセンターとして精神障害者の地域生活を支援してまいりました。

この度、総合心療センターの 3 階フ

ロアに移転いたしました。総合心療センター内に統合し、チーム医療をより機能的に行うことで、精神障害者の自立を支援していきたいと考えていますのでよろしくお願いいたします。

みょうじん かずひろ

PS サポーター候補生(二期生) 活動報告会のご案内

各部署より選抜されたメンバーが研修活動の報告をします。患者さんへの案内の映像化や、駐輪場に溢れる自転車対策など興味深い発表があります。職員の皆さん、ぜひとも聴講をお願いします。

だんしゃり断車離

はじめませんか？

ゆっくりと近森周辺のまちを歩いてみませんか？
通り過ぎていく時間をかえてみましょう。

PSサポーター

日時：平成 26 年 1 月 17 日 (金)

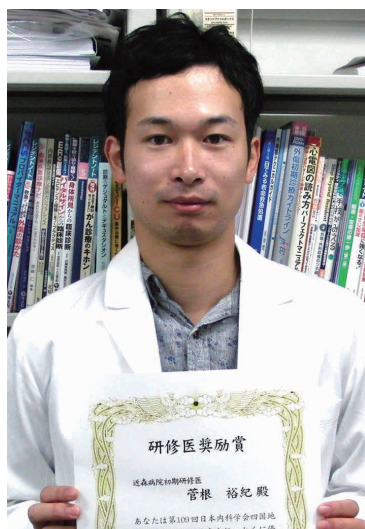
9:00 ~ 14:00

場所：近森病院管理棟 3 階会議室 2・3

発表者：17 名 (6 チーム)

日本内科学会第 109 回四国地方会 研修医奨励賞受賞

不安定狭心症で入院となり、
6 時間後に突然の心停止を
来した 1 剖検例



近森病院初期研修医 2 年次
菅根 裕紀

今回の発表症例は、学会発表にありがちな希少な症例でもなく、華やかな成功談でもありません。自分にとっては目を覆いたくなるような失敗談です。それゆえに学ぶことも多く、真に議論されるべき症例だと思います。

今回このような議論を深める場を提供して下さったことに感謝しています。これからも、本症例で学んだことを忘れず、真摯に患者様と向き合っていきたいと思っています。研修期間も残り少なくなりましたが、今後ともよろしくお願いいたします。

すがね ひろき

■ ■ ■ 乞！熱烈応援 ■ ■ ■

堅実な診療をこころがけ

近森病院泌尿器科
科長 香西 哲夫



昨年 12 月 1 日より、働かせていただくこととなりました。近森病院は 7 年ぶりの勤務となります。

そうはいっても、就任当初は、不安緊張ありました。そんな自分に、廊下、道路で懐かしい方々が「先生、久しぶり」と声をかけていただき、昔話などしていくうちに、不安緊張も徐々に軽減され、何とかやっていけそうかなという気持ちになってまいりました。たいへんありがたく思っております。

お世話になることが多い立場でありますが、堅実な診療をこころがけ、恩返しさせていただきます。

こうざい てつお

真ん中の存在として

臨床工学部急性期 CE チーム
主任 橋本 将幸



急性期 CE チームは手術室や集中治療室では人工心肺装置の操作や人工呼吸器等の機器管理などを、ER では積極的に心肺蘇生や人工呼吸器を必要とする患者さんへの治療のサポート、緊急手術への対応など、「急性期」という部署には必ず顔を出します。医療機器のトラブルにも 24 時間体制で対応しています。そのため、他の部署との関わりが多く、いろいろな場所で「CE さん」と声をかけられ相談を受けることもよくあります。まだまだ未熟ですが、上司と後輩の真ん中にいる存在として、出来ることをがんばっていききたいと思います。 はしもと まさゆき

「近森病院」 日本医療機能評価機構の認定更新

さまざまな制約下での 新バージョンの認定

診療支援部企画課

部長補佐 兼 企画課長 山崎 啓嗣



近森病院は、昨年 12 月 6 日付で日本医療機能評価機構より、機能種別版評価項目一般病院 2 3rdG:Ver.1.0 で更

新認定をいただきました。

認定は今回で 4 回目となり、新たな認定期間を含めると通算で 20 年もの長さになります。

認定の際は毎回、いろんな課題を抱えるなかでの更新となりますが、とくに今回は近森病院建設 5 力年計画が進行中であり、現場は、ハード面、ソフト面、さまざまな部分で制約を受けており、たいへん慌ただしいなかでの受審となりました。

加えて、審査内容もストラクチャーからケアプロセス評価へと軸足が移され、新 Ver.1 としてより高いレベルの審査基準でした。

当日は、患者さん本位の医療提供を、実際にどのように行なっているのか、現場での各職種とのやりとりのなかから確認し、審査をされました。

変則的な業務を余儀なくされている各部署のみなさんには、いろいろとご準備、ご対応いただいたこと、心より感謝申し上げます。これからも縦横無尽にチーム医療をブラッシュアップしていただき、本更新認定も一通過点となるよう、さらなる質向上を達成できるよう取り組んでいただければと思います。

また、われわれ管理部門は、それをしっかりサポートしていきたいと思えます。 やまさき ひろつぐ

ハッスル研修医

近森病院で勤務できる幸せを



初期研修医 中村 大輔

近森病院で勤務を始めて早 10 カ月が経ちました。せっかく記事を書いていただく機会を得ましたので簡単に自己紹介をします。

山口県で高校卒業まで過ごしました。一度目の大学生は京都で過ごし、作業療法士として関西医科大学病院で 3 年間勤務しました。700 床ある病院に作業療法士は 3 名という環境で院内を駆けめぐるなか、医師への憧れと不満、もっと勉強したいという思いが強まり医学部再受験を決意。働きながら受験勉強をし、幸いにも東海大学医学部に編入学しどうにか 32 歳で研修医として今を迎えています。

昨年最愛の妻と結婚し、今年息子を授かりました。息子には私のように遠回りの人生、お金のかかる親戚かせの人生は送って欲しくないから願っています。不器用な私ですが、素晴らしい先輩医師・同期・各種スタッフの方々に囲まれ、お世話になりながら日々楽しく過ごせていることに感謝しています。近森病院で勤務できることは本当に幸せなことです。 なかむら だいすけ

リレーエッセイ

我が家の日課

訪問看護ステーション
ラポールちかもり
看護師主任 溝依 百世



私の父が柔道をしていたこともあり、その影響を受けてか息子と娘が柔道を習い始めて 6 年がたちます。(息子は小学 1 年生、娘は年長さんでした)

はじめは、運動をすることで体力がつけばと思い何となく習い始めた習い事でしたが、今となっては毎日夕方に道場に通うのが我が家の日課となり、すっかり道場中心の生活となっています。風邪をひいても、怪我をしても道場に通う子供を見ていると、理由をつけては習い事のずる休みを考えていた、自分の子供の時とは大きな違いだなあと感心するばかりです。

そして、毎日練習をすると必然と起こる柔道着の洗濯が、私の毎日の日課ともなっています。仕事から帰って、夜な夜な洗濯機を回し、雨の時にはなかなか乾かない柔道着を憎ら



第 37 回西日本少年柔道大会 迎

第 37 回西日本少年柔道大会開会式の様子

しく思ったことも何度あるか……。これからの寒い時期は、また乾きにくくなる時期なので悩まされます。

柔道を始めてから、骨折などいろいろな怪我をしましたが、それでも柔道が好きだという子供を見ていると、私もがんばらなくてはいけないなあと考えさせられます。まずは今夜の洗濯から……。

みぞより ももよ

ハートセンター体験ツアー 集中治療棟や カテーテル検査室の見学など 柔軟に対応

近森病院 5B 病棟

看護師長 山脇 寛子



執筆者手前から3人目(赤い服)

循環器心疾患における急性期の適切な治療を行うために、近森病院では24時間体制で診療、看護を行なっています。

心臓カテーテルの検査やPCI（経皮的冠状動脈形成術）は、全国でも有数の症例数を誇り、ハートセンターとしてあらゆる循環器の疾患に対応しています。

循環器看護に興味のある方を対象としたインターンシップ「聴いて・見て・歩いて感じる循環器看護」をご紹介します。

このコースでは、ウォーキングカンファレンスへの参加や心臓血管外科の回診の見学、心臓カテーテル検査を受ける患者さんの検査前後の看護について見学・体験をしていただくことがで

きます。

コースは半日と短いです、当日の状況により集中治療棟やカテーテル検査室の見学など柔軟に対応させていただきたいと思います。

心臓血管外科回診では、医師・看護師の他、薬剤師やリハビリスタッフ、管理栄養士などがお互いに意見を述べ、情報共有しているスピード感あふれるチーム医療の実際にも触れていただけるものと思います。

実習でもなく、難しいレポート提出もありませんので、質問があれば現場でどんどん聞いてください。近森病院の教育体制の説明もあり、看護実践の体験やスタッフとの交流を通して、近森病院の雰囲気を知っていただけるよい機会になればと思います。

やまわき ひろこ

♪ 感謝 ビタミンコンサート 50 回記念 ♪



近森オルソリハビリテーション病院で行われている「デュオ・ナトゥール・ビタミンコンサート」が50回目を迎えました。近森会グループの今年の忘年会をピアノ演奏で彩っていただきました。



左から野村朝子さんと高村美智代さん。「これからは100回を目指したい」という言葉をいただきました♪



近森会 保育室 そろと

「そろと」のみなでクリスマスをお祝いました。

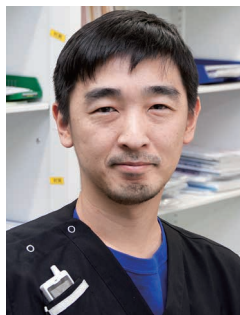


第40回医学教育者のためのワークショップに参加して

熱い教育的精神に
触れ合い

近森病院消化器内科

科長 近森 正康



ディスカッションや飲み会での全国の先生方との情報交換、医学生・研修医に対する熱い教育的精神に触れ合うことでした。

このワークショップで学習したことを研修医指導はもちろん、卒前の学外実習生などにも、なんとか活用していきたいと思っております。たいへん貴重な経験をさせてもらってありがとうございました。

ちかもり まさやす

12月8日から12日までの5日間、第40回医学教育者のためのワークショップに参加しました。

富士山を北西に望む静岡県裾野市の下和田にある富士教育研修所という人里離れ、隔離された環境での合宿でした。教育に関してズブの素人の私は、合宿への参加ということにたいへん不安な気持ちでした。

ワークショップの前半部分はWHO方式による教育カリキュラム作成の学習をしました。実際の作業はスモールグループでのディスカッションから教育の目標、方略（方法）、評価を設定し、実際に教育カリキュラムを作成していく方法です。

参加者は卒前、卒後の教育を実際に担当しているエキスパートの先生ばかりで非常に高いレベルでのディスカッションが行われました。

ワークショップの後半は、アウトカム基盤型教育（OBE：Outcome-Based Education in Medicine）についての学習でした。

前半のWHO方式は本邦での従来からあるプロセス基盤型教育法であり、OBEとの相違に戸惑う参加者もいましたが、実際のプログラム作成作業の過程で理解を深めることができました。我々のグループはチーム医療を実践するというコンピテンス（学習アウトカム）を作成しました。

朝8時30分には集合して昼食、夕食時もディスカッションし、夕食後も更に作業を行ない、21時からは情報交換会という名目の飲み会が、連日行われました。

ワークショップの合間に行われた講演はいずれも興味深いものでしたが、とくに4日目に行われた（生きる伝説の）日野原重明先生（なんと御年102歳！）の問題解決技法の刷新についての講演は、非常に心に響く感動的なものでした。

さまざまなプログラムが用意されていましたが、もっとも心に残ったのは



御年一〇二歳になられる日野原重明先生を囲んで、ワークショップに参加した皆さんとともに。前列向かって左端が筆者

▼ハワイならではの開放感！



職員旅行

ケアンズでナポレオンフィッシュと▼



▲モンキーポッドの大樹の前で



▼カンボジアで「いっせーの一で!!」▶



16年間の感謝を込めて

先生なら、どうしますか？

経験のあるなしに関わらず、全身麻酔の手術に臨む際の不安や恐怖は、誰も避けがたいのではないだろうか。

丸16年の近森麻酔科医生活で、畠中部長がいちばん心を砕いたのは、ま

さにこの部分で、「術前の患者さんの信頼をいかに得るか」が大きなテーマだった。ときに硬膜外麻酔の併用も求められるが、「先生ならどうしますか？」と手術に向かう患者さんに問われ、「ボクならむろん受ける。親にもむろん勧めるよ！」。そんなやりとりから始まる信頼関係の構築を心がけてきた。

手術中はむろん、術前も術後も含めて全身管理を担う麻酔科医にとって、術前に「安心してこの麻酔科医に任せられる！」と患者さんに安心してもらえることが大きな課題となる。緊急手術件数も多く、認知症や重度の精神疾患などにより術前のコミュニケーションを取れる患者さんの数

が減ってきているとはいえ、大手術に臨む患者さんの心を解きほぐすための時間をできるだけ取るように努めてきた。だからこそ、術前の患者さんのベッドサイドを訪ねるし、フットワークの軽さを大事にずっとやってきた。

平成10年1月、元旦から丸16年

退職を決意したのは、「そんなフットワークの軽さを目指してきた毎日に体力的なキツさを感じ始め、余裕を取り戻す時期にさしかかってきたという思いが強いから」と感慨深そうだ。

16年前、愛媛県から故郷高知の近森病院に戻り、勤め始めたのは平成10年1月元旦から。「入職の当時からあれこれと皆さんにとってもお世話になりました」と、畠中部長は感謝の気持ちをずっと持ち続けてきたのだろう。

須賀太郎部長から引き継いで輸血療法委員会の委員長に就任したのは平成15年8月だった。年にいちど輸血療法学会に参加して、日本の大きな流れのなかで近森グループを眺めることを心がけ、チーム医療が求められるなかで検査技師スタッフとは自分のワゴン車を出して学会へも出席した。

高知県の輸血・細胞治療研究会の理事も引き受けている。輸血のための血液備蓄など高知県全体を意識した視点の必要性を痛感するようだ。

手術室で準備中の畠中部長

無意識の集中！ 趣味の魅力！！

学会に参加したついでに、高知にはない都会の雑踏を経験すると、それをカメラに収めることも忘れなかった。雑踏のなかで「被写体を探し回る」などと気負うわけではないが、なんとなく目は無意識に面白いものを探しつつ歩く。たまに、ピンと閃く瞬間があると迷わずシャッターを切る。その一瞬一瞬の緊張感がなんとも心地よく、そんな時間を過ごせたあとは、いつの間にかスッキリと、ストレス解消にも繋がるらしい。無意識になろう、集中しようとするしなくても、気づいたら夢中になっていたり集中できていたり…。それが趣味の魅力であり、今後ともオフに続ける原動力になりそうだ。

新天地に羽ばたく

体調を崩しそうな時期もあった。そんなとき、気遣う風でもなくサラッと接してくれた家族や仲間への存在には心から感謝して、その気持ちを忘れずに精いっぱい頑張りたい、と次へ向けての覚悟もできている。

新春からはまた新たな気持ちで信じる医療を続けたいと希望に燃えている。近森写真クラブで活躍したのと同様に、様々な文化活動の極めて盛んな新天地でも益々の活躍が期待される。

畠中部長、トレードマークの手術帽を被りオペ室の外での活動も印象深く、ホントにお世話になりました。



▲春の職員旅行、マルセイユの街角で

▼夕闇迫る港町、語らうシルエットに惹かれ



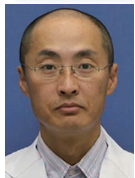
▼昔みたアンセル・アダムの雲を意識して



▲親父のカメラを持って愛媛で過ごした学生時代、「あったから撮っていただけでしたが、近森で同級の山本彰Drに再会し、レンズの話で盛り上がりまして…。以降、今では写真クラブの主要メンバーで毎年よさこいでは撮影隊として大活躍。作品は近ごろお気に入りの写真

ニューフェイス

①所属②出身地
③最終出身校
④家族や趣味のこと、自己アピールなど



香西 哲夫

こうざい てつお ①泌尿器科医師②香川県③高知医科大学④7年半ぶりに近森病院で再び働くことになりました。夏も冬も、雨や雪の日も自転車通勤で弱った下半身を強化します。

12月7日(土)

コーラス合衆団 クリスマスコンサート

近森オルソリハビリテーション病院、
近森リハビリテーション病院で行われました。



編集室通信

高知駅から南を見ると大型クレーンが近森病院の心臓部建設で中空をよぎっている。

廿代橋を渡ると、ボールジャンボがこんなにも広がったのかと目を見張る近森リハ予定地がまぶしい。病院周辺は銀杏や紅葉した木々が青空に映え「本土には秋がある」と語った沖縄の研修生の言葉を思い出しながら感謝して小川公園前をオルソへ向かう。 歌

図書室便り (2013年11月受入分)

- ・心血管インターベンションエキスパート 2 3-D mapping アブレーションにどう活用するか/山根禎一(編)
- ・すぐに役立つ栄養指導マニュアル【改訂3版】ベッドサイド・在宅での実践栄養食事指導/中村次次(他著)
- ・病院設備設計ガイドライン(空調設備編、衛生設備編)/日本医療福祉設備協会規格・指針委員会(編)
- ・医療事故ゼロのための60の鉄則 事例・判例から学ぶケーススタディ 60/柴田義朗

《別冊・増刊号》

- ・別冊 医学のあゆみ CKD 診療ガイド 2012 ガイドブック/今井圓裕(編)

- ・こころの科学 SPECIAL ISSUE 2013 くすりにたよらない精神医学/井原裕(他編)
- ・デンタルハイジーン別冊 ポイントを押さえてスキルアップ! チェアサイドのアシスタントワーク/小森朋栄(他編著)
- ・泌尿器ケア 2013年冬季増刊 写真とイラストでみるみるわかる! 泌尿器科看護技術 コツとポイント/力石辰也(監修)
- ・透析ケア 2013年冬季増刊 写真クイズでみるみるわかる! 透析療法ぜんぶマスター/山家敏彦(編著)
- ・呼吸器ケア 2013年冬季増刊 ワザとコツがひとめでわかる! 人工呼吸ケア基本手技のDo & Do Not トレーニング/尾野敏明(監修)

2013年11月の診療数 システム管理室

近森会グループ	
外来患者数	17,228人
新入院患者数	858人
退院患者数	867人
近森病院	
平均在院日数	12.15日
地域医療支援病院紹介率	92.86%
救急車搬入件数	406件
うち入院件数	195件
手術件数	421件
うち手術室実施	263件
→うち全身麻酔件数	157件

● 平成25年11月 県外出張件数 173人
件数84件延べ人数173人